

令和2年5月14日
三重県教育委員会
JAバンク三重

補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を 県内全ての小学校へ寄贈 ～子どもたちの農と食への理解深化を期待～

JAバンク三重は、子どもたちが食、環境および農業への理解を深めることを支援するため、平成20年度から、JAバンク補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を県内の小学校等に贈呈してまいりました。

令和2年度につきましても、三重県教育委員会の協力のもと、県内全ての小学校および特別支援学校に補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を寄贈いたします。

《寄贈先等》

■寄贈先

県内全ての小学校、特別支援学校（計367校）

■寄贈冊数

児童用 計：17,864冊

教師用 計：1,130冊

DVD教材 計：367枚（各校1枚）

■寄贈予定日

令和2年5月15日

《補助教材の概要》

■対象児童

小学校5年生

■内容

「農業とわたしたちの暮らし」は、「食」と「農業」のかかわりや流通等について学ぶことで農業に対する理解を多面的に広げることが狙いとし、子どもたちが関心をもって自ら考え・話し合い・まとめられるよう構成しております。

三重県教育ビジョンに掲げる「新しい時代を生き抜いていく力」を養う一助として、社会科を中心に総合的な学習、家庭科等の授業で活用される予定です。



＜お問い合わせ先＞

- 三重県信用農業協同組合連合会 農業金融部

Tel:059-229-9037(担当:北村)

- 三重県教育委員会 小中学校教育課 小中学校教育班

Tel:059-224-2963(担当:谷本)

JAバンク補助教材「農業とわたしたちの暮らし」のご紹介

これまで本教材を活用していただいた先生・児童からの声

①先生方からのアンケート結果

JAバンクの補助教材に対して全国の先生方からアンケートをいただきました。そのなかからご意見の一部をご紹介します。

- ・食や農業については、学校だけではなかなか行き届かないので、専門の立場から教えていただけてありがたいです。
- ・とても丁寧に書かれており、改めてこの教材を中心に授業を進めていけばよかったです。
- ・子どもたちに楽しく分かりやすく指導しやすいため、活用させていただきました。とても大切な学習なのでとてもありがたいです。
- ・子どもたちが将来の農業生産についての課題を知ったり興味をもったりできるのでよい。
- ・食を考えさせるにあたり、身近なJAが取り組んでくれるのがよい。
- ・「これからの農業」では夢のある話が取り上げられていて、子どもたちもおもしろがっていました。食は生きていく上で欠かせないので素晴らしい活動です。
- ・生産者の方の悩みや願いなどが消費者（児童）に伝えられる良い機会になっていると思いました。

②児童感想文の概要

JAバンクの補助教材に対して全国の児童から感想文をいただきました。そのなかから感想の一部をご紹介します。

- ・社会の教科書で農業をしている人が減っていると聞いて心配になりました。でもこの本を読んで安心しました。なぜなら若い人に国が研修を行っていたり、新しい技術活用の研究によって人手が少なくすむということが行われているからです。人が生きていくために必要な食料をつくる農業という言葉がすてきだなと思いました。わたしも家の庭でもとうもろこしを育てています。まだ葉しか出てきていないので早く実ってほしいです。やおやに行ってさくらんぼを見ました。どれもみんな同じに見えたけど一つ一つ特ちょうがあるのか知りたいです。
- ・とても分かりやすく、おもしろく、勉強になりました。お米などの専業農家がへっていると知りおどろきました。このままへり続ければ、わたしたちの食べる食料は、外国産となってしまうのかよく考え、少しでもそれをおくらせる事ができるように、残さず食べる事をいろんな人に、よびかけできたら、よびかけしたいと思います。JAの方々にも、農家の方々にも感謝します。
- ・元々、野菜農家になりたかったけれどもっと農業への関心が増えた。家で家庭菜園で10種類ぐらい食べるだけ育てているけれど、それを農家は毎日何千かぶもしゅうかくしていることを知りおどろいた。ふだんあたりまえのように食べているものも農家の苦労があり感謝の気持ちで食べようと思った。また、スーパーなどで売っている野菜なども色々な人がかかわり、長い旅をしていることを知った。農家以外にJAの人やトラックのドライバー、スーパーの店員などにも感謝する。

以上